

県立三好病院

平成27年11・12月号

今の特集：尿路結石について



手術室のスタッフです

3階のスタッフです



～ 県立病院基本理念～

県民に支えられた病院として
県民医療の最後の砦となる

発行 徳島県立三好病院 広報委員会
〒778-8503 徳島県三好市池田町シマ815-2
TEL 0883-72-1131 FAX 0883-72-6910

臨時看護師募集

県立三好病院では
臨時看護師、臨時准看護師を
随時募集しています。

御意見・御要望がございましたら、ホームページ、または院内御意見箱までお願いします。
広報バックナンバーは、ホームページにて御覧になれます。

尿管結石について

泌尿器科 井崎 博文

1. はじめに

わが国における1965年から10年ごとに行われている尿路結石症の疫学調査によれば、尿路結石症は年々増加しており、年間罹患率(1年間にこの病気にかかる割合)は2005年の時点で1965年の3倍となっています。

男女比はほぼ2.4：1で男性に多くみられますが、近年は女性の比率の増加傾向を認めています。また生活習慣病やメタボリックシンドロームの患者さんでは尿路結石症が多いことが報告されています。再発率も高く、腎結石での再発率は5年間で45%、10年間で60%とされています。徳島県は糖尿病患者が多いため尿路結石患者さんも多いです。(糖尿病患者さんの約10%合併)

尿路結石の成分は、カルシウムが約90%で最も多く、次いでリン酸マグネシウムアンモニウム7.4%、尿酸5.2%、シスチン1.0%、その他7.0%となっています。

2005年の上部尿路結石の生涯罹患率

男性15.1% (7人に1人が一生に一度は罹患)
女性6.8% (15人に1人が一生に一度は罹患)

1995年の1.5倍、10年に1回の調査
2015年(本年) もっと増加していると思われる

生活習慣病と尿路結石(合併率)

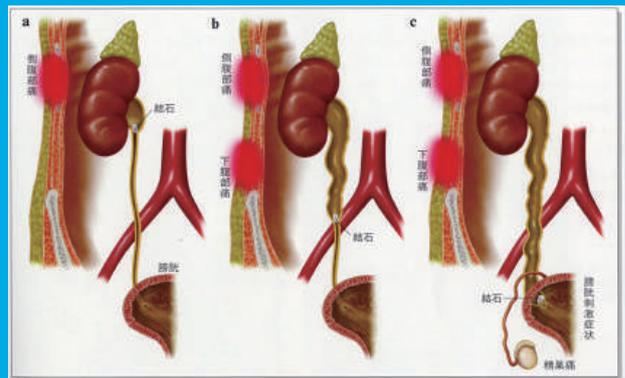
○糖尿病	9.8%
○高脂血症	14.1%
○高血圧	21.7%

2. 尿路結石の症状

尿路結石の最も大きな症状は背中や側腹部の強い疼痛です。この痛みは夜中から明け方に多くみられます。他にも頻尿・残尿感などの膀胱炎のような症状、吐き気や嘔吐などもみられます。血尿(尿に血が混じること)も重要な症状ですが、自覚できるほどの血尿でないことも多く、診断時に確認できる顕微鏡的血尿の場合が多くあります。

尿路結石による尿路の閉塞状態が長引くと貯留した尿により尿路が広がり水腎症といわれる状態となります。水腎症が長い間続くと腎機能が低下し、最終的には腎機能が失われます。疼痛は逆に数日間で軽減しますので、背中や側腹部の激しい痛みが治まったからといって放置すると、結石が排出されず長期に同じ部位に停滞して、尿管粘膜により被覆され、嵌頓(かんとん)結石と呼ばれる状態になり、自排する可能性が非常に少なくなります。尿路結石によって起こった水腎症の部分に細菌感染がおこると、結石性の腎盂腎炎を起こします。また、重症化した結石性腎盂腎炎では、菌血症になって生命の予後を左右することもあるため、早急な泌尿器科的手技が必要とされます。

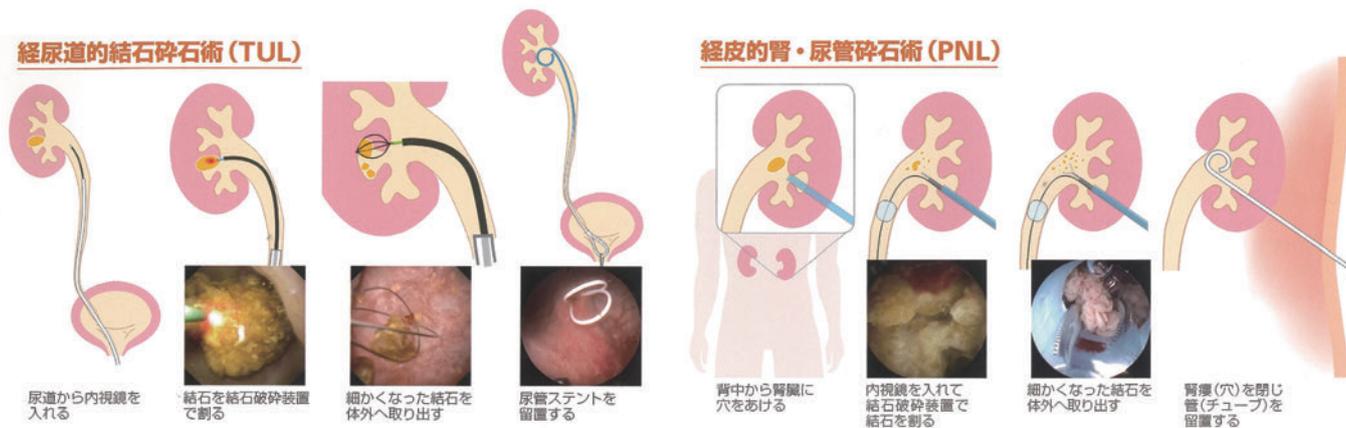
上部尿路結石の部位と疼痛



3. 尿路結石に対する治療法

5mm以下の結石は、1日尿が2L以上であるような飲水、運動などの日常生活指導のみで自然排泄を期待できます。

繰り返す疼痛や尿路感染の合併、尿が腎にたまって機能低下が懸念される場合は積極的に手術も行います。また結石が10mmより大きい場合には、飲み薬による治療では自排は不可能なことが多いので、結石を体外に出すため手術療法を行います。結石の部位や大きさをもとに下記にあげる、体外衝撃波碎石術(ESWL)、経尿道的尿管碎石術(f-TUL)、経皮的腎碎石術(PNL)を行います。従来積極的に行われていた体外衝撃波結石破砕術(ESWL)は治療後の再発率が5年以内に30~40%と高い事と腎結石では腎臓が萎縮することがあり、細径尿管鏡とレーザーを使用し結石を破砕し、破砕片をバスケットで回収するf-TULが行われるようになってきました。最新の報告では、1cm以上の結石のstone free rate(結石が治療でなくなる割合)はESWLで50%、f-TULで93%、1cm未満ならESWLで80%、f-TULでほぼ100%と良好な結果が得られるようになってきました。尿管結石は当然治療の適応ですが、腎結石も10mm未満のものは容易に尿管に移動し水腎症をきたしたり、腎盂腎炎や膿腎症を併発します。また10mm以上の結石も、最近の尿路結石症ガイドラインでは移動の可能性が少ない腎杯結石でさえも、結石関連事象(腎機能障害・腎盂腎炎・膿腎症)が発生するため積極的な治療が勧められています。またサンゴ状結石も腎機能低下を招くため治療が必要です。



4. さいごに

三好病院は平成26年8月新病棟(新手術室)が開院され、徳島県立中央病院以上の最先端の手術施設が備わっています。今まで、三好地区から多くの結石患者さんを中央病院にご紹介いただいていたのですが、7月からは三好病院にもレーザーを導入して積極的にf-TULを行っています。三好病院泌尿器科のスタッフは、4~6か月ごとに徳島県立中央病院から交代で勤務しています。さらに結石の手術を行う月曜日と水曜日は中央病院からもう一人スタッフが赴き万全の態勢で行っていますので、7~10月は徳島市内や県外からも多くの患者さんがf-TULの手術(合計42件)を受けに三好病院にられました。

尿路結石でお困りの方がおられましたら、気軽に泌尿器科にご相談ください。

3階病棟で
勤務しています！

脳卒中リハビリテーション認定看護師 横佐古美千代



私は、脳卒中により後遺症を残した患者さんの生活を少しでも質の高いものにできるよう支援したり、患者さんのご家族を支えるための活動を行っています。

通常の看護業務を行いながら、毎週水曜日は活動日として、「動くこと」や「食べること」などに対してより良い看護ケアが提供できるように、実践や指導を行っています。

また、医師や理学療法士、ソーシャルワーカーなど患者さんに関わる色々な職員と連携し、脳卒中患者さんの今後の生活の質を上げられるように協力して活動しています。

脳卒中に関して相談があれば、気軽に声をかけてください。

脳卒中リハビリテーション認定看護師の役割

- * 発症直後の患者さんに対し、重症化を予防するための観察と看護ケアと、病態に応じた早期リハビリテーションを実践し、自立支援を行う。
- * 高次脳機能障害をもつ患者さんの生活を良くするための看護ケアを行う。
- * 脳卒中再発予防のための患者さん、ご家族への指導。
- * 脳卒中患者さんとご家族の擁護者として、相談や多職種との調整を行う。

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血を総称して脳卒中といい、いったん発症すると動くことや食べること、話すことなどが障害され、日常生活動作がうまく行えなくなることがあります。

また脳卒中は、生活習慣に大きく影響を受けており再発しやすい病気です。はじめは軽症でも、再発により重い障害を抱えることもあるため、再発防止が重要です。

今後は、薬剤師や栄養士と協力しながら、退院前の生活指導の充実を図っていきたいと思っています。また、地域の人たちに向けて、脳卒中にならないための情報提供や生活のアドバイスをしたいと考えています。

